

会 議 録

会議の名称	平成22年度 第1回 行政改革推進委員会		
開催日時	平成22年5月14日(金) 午後6時08分～午後8時20分		
開催場所	南アルプス市役所 東別館 3階 会議室	公開の可否	可
事務局	総合政策部 行政システム課	傍聴者数	0人
出席者	委員	内田清委員、森岡千代野委員、金丸一元委員、渡邊次郎委員、桜田清委員、伊東徹委員、石川佳世子委員、師岡恵子委員、渡辺聖香委員、三木仁委員、金丸博樹委員 日高昭夫アドバイザー 村松章雄委員【欠席】加藤里美委員【欠席】	
	関係者 担当課 出席者	今沢市長、野中副市長、 村松総合政策部長、斉藤総合政策部次長 石川財政課長	
	事務局	清水行政システム課長、石川課長補佐、塩沢、伊藤	
内 容			
<p>開会 : 午後6時08分</p> <p>行政システム課長 それでは会議に先立ちまして行政改革推進委員委嘱状交付を行います。 (委嘱状交付 11名 及び日高アドバイザー紹介)</p> <p>市長あいさつ 皆さんこんばんは、大変多忙な中、また開催時間も6時からという大変お忙しい中、お集まりいただきまして、改めて厚く御礼申し上げます。本市が発足しまして今年8年目になります。南アルプス市の行政改革推進という事につきましては、それぞれの先生方のご指導とご配慮を賜りながらこれまで進めてまいりました。今後は特に、第1次の行政改革の検証、第2次の行政改革の進捗状況・管理を含めて対応していただくということで、13名の委員の皆さんにつきましては改めて御礼申し上げます。また、先ほど事務局の行政システム課長が申し上げましたが、日高先生におきましては、山梨学院大学の中で大変ご努力をいただいております。そういった先生がアドバイザーとして参画していただけることにつきましても厚く御礼申し上げます。今回は委嘱を含めて第1回の会議となります。それぞれの皆さんのお力添えをいただきながら本市も8年目を迎える中でしっかりと検証していただきたいと考えております。第2次行政改革実施計画につきましては、本年度より平成26年度までの5年間の内容になっております。今回は13名中5名を新たに任命させていただき、また、5名中2名が公募に応募され、また、新たな思いで対応していただけることが前進できる原点になるのかなと思うございます。今日は忙しい時間ではあったらと思いますがご配慮いただいたことに感謝申し上げます、そして、それぞれの先生方がお元気でご指導・ご配慮いただくことをお願い申し上げながら私からの挨拶とさせていただきます。本日は大変お忙しい中をありがとうございます。</p> <p>行政システム課長 ここで、ご報告をさせていただきます。委員名簿5番の村松章雄委員におかれましては、本日、業務のため欠</p>			

席される旨のご連絡を受けております。それでは、会議次第 4 の委員紹介にはいります。今回初めての顔合わせとなりますので委員名簿順に自己紹介をお願いしたいと思います。

委員名簿の順に委員及び出席者並びに事務局の紹介を行った。

行政システム課長

続きまして、会議次第 5 番「会長及び会長職務代理の選任」に移らせていただきます。皆さんにお配りしております資料中「南アルプス市行政推進委員会条例」第 5 条に「委員会に会長を置き、委員の互選によりこれを定める」とあります。皆様にお量りしたいと思います。いかがいたしましょうか？

(事務局案の声)

ただ今、事務局案のお声がありましたので前回の行政改革推進委員会の会長も勤めていただき、また、行政の内容にも精通しております内田委員さんをお願いしたいと思いますがいかがでしょうか？

(委員の皆様よりの拍手)

それでは、内田委員に会長をお願いしたいと思います。職務代理につきましては先ほどの第 5 条の 3 にありますように会長からの指名となっておりますので、会長とご相談しご指名をさせていただきます。

(会長と事務局で職務代理指名について相談を行う。)

会長

図らずも会長という大役を行わなければならなくなりましたが、よろしく願いいたします。

先ほどの「会長職務代理」の指名に関しましてですけれども、この会は議会と良く意思疎通しなくてはならないこともありまして、今までは、議会の総務常任委員会委員長をお願いしていた経過もございまして、議会との連携を図る意味でも森岡さんをお願いしたいと思います。

(委員の皆様よりの拍手)

それでは改めて会長就任のご挨拶をさせていただきます。この委員会は市長さんの諮問に応じて意見を申し上げるという会ですけれども日本の負債や借金は 880 兆円ある、人口で割ってみると大体 860 万近く借金を負っている。それは国だけではなくて県も市もそうであり、だから、きちっとした行財政運営をしていかなければならない。そのためには「改革」をしていかなければならない。ということで、我々も市の状況をよく認識した上で、市民目線で適切な意見を申し上げるという役割があります。そういう意味ではご一緒に諮問に答えて市が良い方向に向かうように進めていけたらなあと考えておりますのでよろしく願いいたします。

行政システム課長

それでは続きまして、会議次第 6 の「諮問」についてですが会長のご挨拶にもありましたように市長から当委員会長に「諮問書」をお渡ししたいと思います。

(市長より会長に諮問する)

行政システム課長

申し訳ございませんが市長・副市長におきましては、この後、公務がございまして退席させていただきます。

(市長・副市長退席)

行政システム課長

次に会議次第7の「協議事項」に移ります。規定によりまして議事進行は内田会長にお願いいたします。

会長

それでは議事に入らせていただきます。(1)(2)(3)につきましては事務局より説明をお願いいたします。

事務局より

- (1)行政改革推進委員会の役割
 - (2)南アルプス市行政改革の取組みについて
 - (3)行政改革大綱・実施計画について
- 説明を行った。

会長

まとめますと地方交付税がどんどん削減されていく現状から、何年か先、あるいは十年か先には20億円程度減となる。これも、国家財政がパンクするとまたこの予定とは違う問題が出てくることになります。そういう中で無駄を省き、合理的な行政をしていかなければならない。また一方では、南アルプス市でも高齢化がどんどん進んでくる。高齢化が進めば医療費等、社会福祉関係のお金がどんどん膨らんでくる。財政が対応しなければいけないことが多くなる。そういった中で合併をした時の無駄のようなものを整理統合しなければなりません。また、職員の定数もいいのかどうかについても考えていかなければならない。そういうことで無駄を省くという方針の基に6つの事業の目的を定めた、それに対して皆様のお手元にある実施計画ということで細かい内容でその項目については、こういった内容で改善をしていこうということで計画したわけですが、我々が指導すべき方向について、こういう時はこうしたほうがいいのか、組織をこういうふうにしたほうがいいのか、福祉関係で仕事をされている方がここはもっとこういう風に留意すべきだとか、その場合は、もっとここをこういう風にすべきだとか家庭の主婦の皆さんであれば、もっとこういう風にうまくやればよくなるんじゃないかという意見も出てくるのではないかと。また行政と市民の協働とはどういうことかという「おんぶに抱っこ」で市にみんなやってもらうのではなくて、我々も積極的に参加をして担うところは担って無駄な支出を省いていこうということで、この大綱が組み立てられています。「実施計画」の説明を事務局よりお願いします。

事務局より「第2次南アルプス市行政改革実施計画」の説明を行った。

会長

この委員会で行う役目などについて何かご質問、ご意見等があればお聞きしたい。それから今、南アルプス市が抱えている問題点ということでどんな認識を持っているか、お互いの意見交換をした方がよいと思います。今、南アルプス市が抱えている問題点についてご意見いただきたいのですが。

委員

ただ今、実施計画の説明をいただきましたが財政的な今までの歳出の構造が15年度から20年度のものがありまして、交付税関係につきましては31年に優遇措置が無くなるという感じの説明がされていますが、たとえば人口予測がどうである、そのシミュレーションと財政指数、歳入が一目で分かるような内容のものが提示できないかと。我々はこういった場でディスカッションして理解していくのですが、一般市民が例えばホームページで実情を理解するにはこういった内容のものがいいと思います。

会長

市の情報提供として分かりやすい情報提供をお願いしたい。市の財政がだんだん窮屈になってくるということ

は共通の認識だと思う。それは南アルプス市に限ったことではなく、どこの市町村でも同じである。それは「行政需要」といって要求することは昔と比べてはるかに多くなっている。例えば介護とかお金がかかる事業がたくさんある。それをどのように調整していくかが問題である。

委員

例えば、高齢化が進んでいく中で、それに対する医療費がどうなっていくのか。人口減によって「歳入」が減少していくグラフを、この辺が厳しいな、などの差を埋めるにはどうしたらいいか。という対策がされているわけです。このようにそれぞれの分析はされていると思うが相対的な評価がしやすいようなシステムを作る必要があると思います。

会長

今、言われたように分かりやすくするというのは良いのですが、いったい我々が市長の立場だったらどういうことを考えて行かなくてはならないか。総論は良いのですが核論になると、例えば職員の首を切れ、となっても簡単に首を切られた方にしてはたまったものではないし、給料を30%カットといっても大変なことになる。芦安地区のように人口が少ないところで何十億円も道路をつくる必要性がないから問題にしるといわれても困りますよね。その中でどのように折り合いをお互いにつけていくかということで核論のところでは皆さんがどのような決意と考えているかということをお市のほうに伝える必要がある。我々も良いとか悪いとか言うのは簡単だけれども、その時どうすればいいとか、どうすれば乗り越えられるかとか、こういったアイデアがあるとか一歩踏み込んで意見を委員会ですとまとめた方がいいか。いかがでしょうか？

委員

国のほうでも「事業仕分け」を進めているが市においても既に行われているとは思いますが、例えば道路計画についてもかなり前のものを使用している感がある、そういう現場をみると今から人口減になるし車を運転する人も減ってくるしチョット無駄だなということが見られる。財政が厳しくなればそういうものは真っ先に見直しをしていくことが必要になっていく。

会長

ですから、実施計画の中でこの部分についてはこういった作業をして、こういったチェックをしたのかという説明があり、その意見を求められるという形になるのではないのでしょうか。

委員

「PDCA をまわす」という言葉的にはいいのだが、実際はどのようにまわしていくかということを決めていかなければいけない。様々な制度とか「改革していく」という意識を持って見直し、改善をしていかないと、ただ表面的な言葉に終わってしまう恐れがある。最初に言いましたが実情がどうなのかということを見やすくして、個々の問題を解決するにはどうしたらいいのかということを決めていく考え方が必要になっていく。

会長

公募で参加された2名の委員さんは、かなり意識が高くて参加していただいたと思うのですがどうでしょうか？何かご意見があれば伺いたしたいと思います。

委員

私は、建設業なので仕事が減ったらただでさえ厳しいのに困るなぁというのが本音なのですが、確かに、市の財政のことを考えれば、活性化できればいいのだけれど、公園とか箱物なんかは、作れば作っただけ維持管理費がかかってくる。今、合併して7年が経過して、櫛形地区は山のほうに公園が出来たりしているが人が利

用しないのにもったいないなあと。永久に維持費、管理費がかかっていくのに、と思います。本当は工事が出たほうがいいのだけれど、チョット見極めが甘いのではないかと思う。そういったところを改善していけば経費がかからないようになるのではないか。

会長

職種柄、「入札制度」のご意見もお願いしたい。地元業者としたらどういった入札が良いのか？こんな風に改善したほうがいいのか、ご意見があればお聞かせください。

委員

「入札制度」は難しいです。おいおい意見を述べたい。

委員

資料を見させてもらおうと大変ということが良く分かる。こういうことはどこでバランスをとるかがとても大切だと思う。

会長

仕事をやられていると思いますが、若者が事業を興したり、事業を拡大していくためには、行政がどういうことをしていくのか？そういうことを段取ってくれる人がたくさんいれば税金は上がるわけです。みんな「困った。困った。」では仕方が無い。お金が入ってくるにはどういうことが必要なのか、お金が入ってくれば社会福祉に回すお金もでてくる。でも、入ってくるお金が無かったら削らざるをえない。

委員

サービスの提供には限りがあるしサービスを受ける側の意識の改革が必要ではないか。子育て支援という形で「子供手当」があり「パラマキ」と言われていますが、良し悪しは別として、受ける側の問題、先ほどの話で市民のニーズが大きい、高い、要求が増えてくるという話がありましたけれども、なぜそうなるのかというと、受け入れ側に本当に必要とされているものなのか、単に自分たちの利益を求めてのものなのか、ということを見極めながらサービスを受け入れる側に対して、これだけお金がかかっている、市の財政状況を伝え、市民の意識の改革が必要になっていくのかなと思います。サービスを受けるのは当たり前という感覚自体を変えていかなければならない。今、サービスをしている側からサービスを受けている側に対する思いで、それを伝えていかなければいけないと思っています。また、限りある財政、市の税金を市民のために使うにはどうすればいいかということを一入ひとりもしっかり考えていかなければいけないし、先ほど情報提供という話も出ましたが、それを的確にしていくことと市民も知るという権利をしっかり自覚していかなければいけないと最近思っている。若いお母さんたちと接する機会が多いが、やっぱり、知らないということもあるでしょうが、知らしめていないということも感じます。色々な形で関われるような税金の使い方をしてもらいたいし、子育て支援ということでは、私たちは「将来の宝」を育てているお母さんたちを大事にして良い宝を市に残したいと考えている。いずれは、市の将来のためになることを行っていると自負しているので、私事ですが、この事業を単年で終わらせることは考えていないので、それには、私たちも市に協力していくという思いもあるので2年間の任期ですが自分の意見、みんなから聞いてきた意見をこの場で言っていきたいと思っている。

会長

他にご意見ありますか？

委員

私は引越してきましたので、元居たところの良さとか、比較が出来たことも多い。こういった面で日頃思っていたことは、地元の良さもあるしチョット困ったところもある。それを旧態依然として良しとしないで、他の自治体の

良いところとかを情報収集して、具体的に、ここの実情にあった方法をどう進めていくか、みんなで考えていって欲しいです。地元の良さをどんどんアピールしていけるように、ここに住んで良かったと言えるような、実感できるような良さを盛り上げていこうになればいいなあとと思っています。

会長

他自治体と比較しての南アルプス市の行政サービスの問題点を出来るだけ出してください。またその原因まで掘り下げて考えて、諮問に答えられるようにしていきたいと思います。

委員

大枠の話をしますと丹波篠山が破綻状態ではありますが、ここは平成合併の第1号であります。モデルケースであり優等生としてやってきた。その市が突然、財政破綻に陥る結果となっています。これはどういうことだということで20日ほど前になりますが行政視察で見に行き行って財政課にも話を聞いてきました。市長が平成19年に代わって、どうも財政状況がよろしくない、シミュレーションをし直してみたら、平成23年には間違いなく破綻すると、財政調整基金も使い切ってしまうと破綻状態になる。4つの町が合併しまして人口が64,000人くらいの市で合併してから11年が経過して、今年で交付税の減額の時期へ来ているということであります。政府のほうも合併のモデルケースということで合併の特例債もどんどん使えということで枠が220億円くらいあった。その内の200億円くらいは使ってしまった。一般財源の起債残高が550、特別会計、下水道が360、上水道が130、諸々併せると1,100億の借金をかかえている。南アルプス市と比べると小さい市だが、南アルプス市が約500億ですから約倍の借金を抱えています。この返済をする公債費が25%くらい支払わなければならないということで「篠山市再生委員会」を立ち上げた。これが特殊な委員会で、本来、委員会などは事務局が仕切っていくわけだが、この委員会はリーダー的に仕切ってくれる大学の先生が専任であり、17人程、委員がいるのですが、そこに副市長がはいり、残りは全て一般公募で選任方法も面接と論文。一切、市の方は口を挟まない。その中で議事にしても、行政側からの提案ではなくて、委員会からの「こういう資料を出してください」などの資料請求によって議論を進め、今後の改正について話し合いを行っている。また、職員の給料は2割カット、5年間で100人のリストラと非常に厳しい内容になっている。南アルプス市の場合、起債残高は550億とそれほど大きくは無いが、今のうちから対応をしていかないと職員の給料カット、突然のリストラという結果になってしまう。その辺も考えて「行政改革」を考えていく必要もある。様々な原因の究明、また、税金も納めていただけない状況にもなっておりますが、徴収率の向上も考えていかなければならないのではないかと。ここに数字がでていますが、それを見ると南アルプス市には危機感というものが全く感じられない。私は議会の質問でもさせてもらったが、徴収率の問題で目標値が97.5になっている。これは過去5年間の平均値が97.46%で目標値がほとんど変わらない状況です。そのことは議会でも指摘させていただきましたが、その後、総務部長より98%に変更させていただいたと話があった。その後、総合計画が出来上がったということで資料が送られてきましたがその中の数値は97.5に戻っている。こちらでいただいた資料も97.5です。どういう仕組みになっているのか？とにかく数値は上げていかなければならないわけで、本来、徴収率は、現年分と過年分と併せた目標値でなければいけないと思う。それを現年分の数値、97.5のみ表に出ている。その辺の危機感というものが足りないのではないかと。また、職員定員のほうで言わせてもらえば、早期退職勧奨制度の計画のなかで各年度の行程表を見ると22年度1人、23年度1人、24年度1人と各年度1人である。5年間で5人です。もう少し危機感を持って対応しないといけないのではないかと。痛い目を見るのは市民で職員も給料2割カットなんていう状況は大変だと思う。せっかくこのような委員会などで意見を言わせてもらってもそれがほとんど反映されない。虚しい感じがします。

会長

ご意見から行財政改革は待たなしで行っていかねばいけない、と言う共通認識は持っていただけたらと思う。それぞれの皆さんの立場から「ここはこういう風に改善すればもっと良くなるであろう」と言う

意見を積極的に出していただいて答申をしていきたい。また、日本がどうなるかという問題もあり、ギリシャの騒動と同じような問題が日本でも起こっても不思議では無い。みな、選挙対策でどんどんどんどんお金をばら撒いてしまえば、いずれ 1,000 兆円を超えてしまうのは時間の問題である。ただ、必要なものは必要で確保しなければならない。「メリハリ」をつけることが重要で、お互いに我慢するところは我慢し、将来の見通しを立てるということは非常に大切なことです。5 年先、10 年先の大きいビジョンの中で考えていき、危機感についても共有して改善を考えていく。委員会の基本的な意思統一をしていきたいと考える。今後、委員会を開催していく上で、こういうことについては頭の中に入れて置いてくださいよ、ということがあれば、日高先生にアドバイスいただきたいと思います。

日高アドバイザー

大卒の話に関してはもうすでに会長さんがお話されたとおりですが、委員の皆さんからもご意見いただき、どの意見も非常に的確なポイントをついたご意見であり、ご指摘にあった南アルプス市の将来をどう認識するかという点で危機意識が足りないのではという印象をうける意見があった。行政改革を真剣に市民の皆さんと取り組んでいって、行財政の効率化を図り、もう一方では、市民の皆さんに色々な意味での協力を得なければいけない。そういった意味では、冒頭、意見も出されましたが、相対的な長期的な展望も入れた分かりやすい資料がないと理解してもらえないのではないかと。行政改革大綱実施のあり方に関連して言えば、先ず、6 番、「計画的な行財政運営への取組み」項目があるが、その中に取組みのメニューの一つとして「中・長期財政計画策定」とあるが少なくとも 10 年くらいの幅で、この先、交付税の減額、収入の見通し、収入については、徴収率が上がらなかった場合の税収の総額、何も対策をしなかった場合の厳しいシミュレーション、これは最悪の場合、と様々な取組みを行った場合、どれくらいの改善結果があるかというシミュレーションなどを様々な条件をつけずに客観的に示すことは難しいとは思いますが、そういったものを示さないとならないのではないかと。この委員会で情報を共有するという事は基本的な財政見通しがどのように推移していき、実際に色々な行政サービスに影響していくかということを考えていく骨格となることなので、それをきちんと示していただきたい。10 年くらいを見越したシミュレーションをすると愕然とする。本気で今年度どうするかではなく、10 年先を考えなくてはいけない。また、施設の話では、必要な施設は必要ということで良いのですが、箱物を作ると建設費で起債を起こすので負担が後年度に発生する。それと同時に箱物的な施設については、必ずランニングコストが発生するので、ランニングコストの推移についても見通しを持っておかないと建設時点だけの財政状況で建設すると後年度のメンテナンスのコストに莫大な維持管理費用がかかる。今後の「中・長期財政見通し」の上でどのような事業を優先的に行うか、どの事業については、財政状況をみて検討していくか、ある意味、新規事業を導入する時、建設してからではなかなか歯止めが効かないので、建設した後に指定管理に出すといったものが知れている。そこで新規事業を導入する時に立ち止まって、事前評価や優先的に作る場合は、様々な案をだして選択していく。それも「行政改革大綱」12 ページにも掲載されているが、予め、制度、仕組みを組み込むことによって、より合理的で見通しを持った行財政改革が見えてくるという仕組みづくりを同時に行っていくので、サービスはどうするか？ということに加えて、この委員会では、より効果的な仕組みを作るといこともきちんと点検をしていくことも大事なことだと考える。

会長

委員会として市の方へ伝えることは、現状、今後の厳しい財政状況について市民に的確に情報を公開する作業を行い、市民の皆さんもそれぞれ自分たちのこととして考えてもらえるようにする。また、交付税が本来の形になった時に歳入が伴わない状況であり、絞らなければいけない。どこをどのように削らなければいけないということが出てくる。現在、新規な事業が無い状態で資金が苦しいわけなので、とても新規事業展開などは出来ない。また、何に重点を置いてどのように整理、縮小、拡大していくのか、財政的な見通し状況については早急に提示していただき、議論も進めていきたいと考えている。次回の委員会または 2 年間の間に議論していきたいと思います。

財政課長

財政見通しは、無かったことはないのですが、あくまでも職員目線で作成している。必要な時に限って作成しているので、先ほど意見のありました人口集計も含めて、1年かけて作成し年度末には公表できるようにしていきたいと考えている。

会長

他にご意見ありませんか？

委員

私は2期目になりますが、少し勘違いしているところもありまして、この会は、市が作成した計画について議論しなさい、それ以外は議論しませんよ。ということらしいのですが、私は3つのことをお願いしたいと思います。1つは「住民参加の町づくり」でNPOなどの団体を支援していく方法もありますが、私は今あるシステムを活性化の方が早いと思う。例えば区があったり組があったりしますので、そういったネットワークを強固なものにしていくことが重要ではないか。私の組の話ですが、新しい組長さんになった時に若い人がアパートに住んでいるのですが、いつ行ってもいない、会っても挨拶もしないと、配り物も配りたくないから、それを了解してもらいたい。と言ってまわっていた。これでは「コミュニティー」は崩壊してしまいます。そこで市の役割を考えますと、転入手続きの時にあなたの住む地域のシステムはこうなっていると、組長さんは誰であるとか、説明する必要があると思う。そういうことを行うことで、子供たちも近所の方たちとコミュニケーションがとれて安心して生活出来ると思います。2つめは、企業の論理を行政にも取り入れていただきたい。投資も必要なのではと思います。例えば「観光客の誘致」であったり「企業誘致」であったりと、限られた予算で考えるのではなくて「歳入」を増やす取組みも必要ではないか。3つ目は、限られた予算をどう配分するかということで、子供たちに対して配分を行うことが重要である。皆さんは「高齢化」というが私はそうは思わない。このまま高齢者が増加していくとは思っていない。戦前の体を鍛えていた人は長生きするが、現在の人たちがそうなるとは思えない。戦前の方たちがピークで今後は減少していくと考えている。ですから、「高齢化社会」についてはあまり心配していませんが「少子化」はとても心配です。子供が少ないということは、町に活力が無いということである。限られた予算は是非、「少子化対策」に使ってほしいと思っている。

委員

行政改革というのは「歳出」を抑えて「歳入」を増やすということかもしれないが「歳出」を抑えるということは、今の生活より不便になるということだと思います。当然、無駄を省くということだと思いますが「歳出」を抑えることばかりでなく「歳入」を増やすことを考えていくことも重要だと思います。「観光」や「企業誘致」など大変だとは思いますが「農業観光」「山岳観光」を更に考えていけば、まだまだ可能性はあると思う。それについての具体案は今はまだ分かりませんが今後、考えていく必要があると思う。

委員

先日、東京タワーに行ったが「日本の経済情勢」というグラフがあり、その下に椅子があり、一人当たりの借金のお金で区分けがされ、その横にはリュックサックが置いてあり「現在の借金」と「10年後の借金の見通し」が示されていた。それを見た時に変な感動を覚えた。先ほど話があったが、「中・長期財政計画」が一番気になることであり、行政において市民に分かりやすい資料やシミュレーションを示すことが重要であると思う。市民が現実をどう受け止めるか、私たちがどのように伝えていくか、情報の共有が必要ではないかと思われる。

委員

皆さん言われていることだが、1つは「歳入」と「歳出」の件が上げられますが、仕事柄「南アルプス市には魅力

的な人が多い」とよく耳にする。観光とか商工会も活発で全国でも有数な活動をしているし「アウトレットが出来る」などの話も聞いている。こういうことが「歳入」に繋がっていく。民間と違い、いくら投資すればいくら回収できるか、市税に反映されていくか、子供が増えるとか、人口が増えるとか見えづらい面ではあるが、歳入を増やす努力、「山岳観光」や「農業」などについて前向きに考えていくことも重要ではないかと思います。もう一つは「歳出」の件で、12ページの「中・長期財政計画」を具体的にして、単純に7～8年で22億円歳入が減るということは毎年2億円づつ減っていくと、大変、雑駁な言い方ですが、普通の会社で考えると歳入が2億円減るといふことであれば歳出を2億円抑えなければいけない。どこを抑えるかということが課題になると思いますが、こちらで言う計画というのは、全体的なことがあり、下から積み上げていくと、その金額に届かない。届かないのであればそのシミュレーションをしっかりと、厳しい中でもどこが厳しいのか、数値化をしっかりと「この数値だから行っていく」「この数値だから厳しい判断をしていかなければいけない」という部分が抜けていると、先ほどの話もそういうことへの指摘だったと思います。「中・長期財政計画」に数値を入れ込んで、年度ごとに落としていく。そのような分かりやすい資料提示をお願いしたい。

委員

私は、若草地区であり、商工会にも入っている。若草地区において「合併して良かったか？」と聞くとほとんどの人が「合併しないほうが良かった」と答える。「合併したほうが良かった」という意見は聞いたことが無い。「合併して良かったな」という市でないという意味が無いと思う。というのは、若草地区では、店はなくなりました、建設業者も15社あった内、7社になりました。その内、3社は自殺しました。ケーキ屋さんもない、花屋さんもない、スーパーもない、電気屋さんもない、何もない町になってしまいました。商工会でも議論しているが、これはどういうことなのか？一方では、山に向かって道はどんどん出来る、公園は毎年、2つも3つもできる。若草地区には公園は1つも出来ない、箱物も一つも出来ません。合併して7年間で、これが合併なのかなと感じます。若草地区においても学校の周り等に道路を作ってほしいという意見もある。人口も若草地区は増加している。そういう若い人たちの意見も少しでも反映させたいと思っています。合併の公平さ、同州制の話も今後出てくるとは思いますが、みんなが良いと感じられる、幸せな気分になれるように、1つの地域だけが発展していくような行政は無くして欲しいと思います。

委員

次回の委員会までに調べておいて欲しいのですが、市内の仕事がだんだん市外の人たちに侵されている。実態を調べて欲しいのは、事務所を構えていないと登録業者になれない、事務所の登録はあるけど、無人で電話も転送、それでも事務所なののでしょうか？市としては市内に在る業者をどのように見ているのか？自由主義的に任せてしまってもいいのでしょうか？先ほど廃業の話もありましたが、この辺りの考え方に筋が通ってないと南アルプス市が崩壊してしまうというのは目に見えている。私が知っている限りでも事務所が無人なところはいくつもある。そういった実態を調べて欲しい。もっと地元の業者さんを育成するということが必要ではないかと思います。

会長

この件について事務局に資料の提出をお願いします。

委員

入札条件として条件を課すことが出来ると思うが、それをフリーにしまえば弱肉強食で弱者は淘汰されてしまう。その辺の目安というか基準となっているものを教えて欲しい。市の税収にも跳ね返ってくることであります。

行政システム課長

状況を調べて報告させていただきます。

会長

こういったことがどこの重点項目にはいるのか。抜け落ちている問題があるがそれについては、この委員会としては、どのようなスタンスで市にお話をしていくかという問題もあります。今の問題は、市内に在る業者に仕事が回るようにすることと入札の金額を安くする上で、どのような考え方を持っているのか。また、市内の業者に落札させれば税収も見込めるということ。入札制度一般の問題ということです。非常に難しい問題です、談合の問題もあるし、実施計画に載っていない問題なので、進捗状況の管理の中でどうにかする問題でもないです。改善できるところはするように、次回の委員会で報告が出来るようであれば欲しい。

委員

「ソーシャルキャピタル」という言葉があるが「社会関係資本」と訳すが、南アルプス市にはすごい力があると言っている学者さんがいる。私たち市民も行政ばかりに頼るのではなく、みんな素晴らしい人種の集まりであるということ報告させていただき、前向きに考えていかなければと思います。

行政システム課長

先ほどの話の関連で、先日新聞にも掲載されましたが「廃食油」を回収して公用車の燃料に活用していくため市民団体の方との協働事業として、様々な方にご協力をいただき、取り組んでいます。

委員

沖縄県の「エコ」についての取組みは素晴らしいものがある。「廃油」をタクシー業者や行政が積極的に使用している。財政状況が厳しい中での取組みとして紹介させていただいた。

事務局から事務連絡(次回の開催について 開始時間について 事務連絡の資料説明)を行った。

委員

先ほど、事務局から次回開催についての連絡があったが、年2、3回開催ということですが、これだけのことをするとなると、かなりきっちりしないといけないと思う。やるからには、しっかりとした結果も残したいと考えているので、年間の計画をしっかり立てていただきたい。また、17 ページの「式典の簡略化」などを見ると 23 年度検討となっている。23 年度の予算は、この秋に予算を立てると思うが夏に開催したとしても、23 年度の予算には持ち越して中止とかの結果が出た場合は、反映できないのではないかなと思う。やるからには年間計画をしっかり立てて、中止する事業など軽減できるような、また、継続する事業、新たに行う事業についても意見できるような資料作成も早めに送付していただきたいし、次回の開催についても 8 月頃とおっしゃっていましたが、それでは 23 年度の予算には反映できないと思う。

会長

おっしゃるとおりで、この委員会のあり方が諮問を受けて、協議をしていくが、進捗状況について報告があって、問題点等あった場合は、それについて説明を受けるという会議であれば事務局の言うとおりですが、もし、もっとこの委員会が主体性を持って行うとすると、報酬等の問題もありますが、その問題は置いといて考えますと、先ほど意見のあった「式典の簡素化」など毎年行う必要は無いのではないかなという意見があれば、市に意見することで、市の執行部の判断を待ったり「入札制度の改革」といっても一朝一夕に出来るものでもないの、委員会としての意見として審議結果を報告させていただいた方が良いのではないかな。事務局主導型ではなく、委員会主導で 3 ヶ月に 1 回は行い、テーマを決めて行ったほうが身のある会議になるかもしれません。皆さんが是非、ということであれば、事務局とも話し合いを行います。今の厳しい経済状況を市民に訴え、情報を共有しそれをどうするのか。情報公開の透明性とか説明責任について、現在こういう状態であるから、こ

ういう使い方をすべきであるとか、そういった話を中心にして次はこのことについて話をしましょうとか、した方が身の在る話にはなるかと思いますが事務局と相談させていただきたいと思います。予算などの兼ね合いもあるが、皆さんが手当ては関係なく、会場さえ確保できれば行いたいということであればいいのですが。
(委員からの良いという意思表示あり)

委員

私は昨年、県の方でも委員もさせていただきましたが、やはり限られた時間の中では出来なくて、各委員会で集まったり、個々で行ったりした。報酬のことは初めて知りましたが、受けたからには責任もありますので、やはり市民の代表として情報を得る機会を与えていただいていますので、2年間の中で出来ることをしたいと思います。

会長

事務局と相談させてください。

行政システム課長

会長と相談させていただいて、結果は皆さんにご連絡するようにいたします。また、今回は、傍聴人はいませんがこの会議は公開が原則となっていますのでご承知おきください。ホームページにも開催日などは公開しています。今回も一件、業界の新聞社の方からご連絡をいただきましたが、内容を説明したところ、ご遠慮された経過もございますのでご報告させていただきます。

会長

協議事項につきましてはこれで終了させていただきます。ありがとうございました。

行政システム課長

以上をもちまして、第1回行政改革推進委員会を閉じたいと思います。貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。今後は、情報を積極的に提供しまして、市民の皆様と一緒に「住んで良かった」という市を作っていこうと思いますので、ご協力をよろしく願いいたします。

開会 : 午後8時20分

備 考	
-----	--